

別府ツーリズムバレー構想推進協議会

2022年11月15日(火)/15時00分～ / 別府市役所 1F レセプションホール

【参加者】

○委員 (15名)

浅野 昭人、阿部 博光、岩崎 友樹、神野 康弘、樹下 有斗、坂井 伸任、倉原 浩志、
末崎 博樹、関谷 忠、永松 秀基、中村 恭子、原 和範、平岡 元庸、牧 昌生、
宮脇 恵理

○事務局等 別府市観光・産業部長、産業政策課長 外4名

【会長あいさつ】 関谷会長

【概要】

(1) 第1号議案について一括説明

《事務局長より説明》

《委員より質疑》

質疑等なし

各委員承認

(2) 第2号議案について一括説明

《事務局長より説明》

《監事より会計監査報告》

《委員より質疑》

質疑等なし

各委員承認

(3) 意見交換会

《事務局長より事務局の取組を報告》

(各委員からの意見等)

①大学連携について

- ・一年前に、創立70周年記念事業の一環として、別府市との共同イベントを開催した。内容は、地元企業と別府大学学生30名がグループに分かれて、「地域を元気にするためには」をテーマに、議論・発表をするものとなり、有意義なものとなった。
- ・令和4年11月13日に立命館アジア太平洋大学の起業部「出口塾」第4期生の報告会と、第5期生の発足式に参加した。今後も起業部と連携を図っていきたい。
- ・先般、市長より、日本財団と障害者が地域とともに豊かに楽しく生き、納税者として活躍できるような暮らしづくりを作るために、立命館アジア太平洋大学と連携して何

かできないかという話があった。APUとしても国籍を超えてリソースを提供して協力したい。また、起業を目指す学生が多いことから、このような学生のつながりを含めて、地域とともに取り組めるのではないかと思っている。

- ・別府大学と連携して、梅の有効活用を図るため、別府公園と南立石公園の梅の木を調査した。調査の結果、老木になっていて、木が痛んでいることが発覚し、新しい苗を植えていくことが必要だ。税金を使わずに公園が活発になればと思い、「みのりフェスタ」にて梅の加工食品を販売し、その収益を新しい苗木を買うための資金にする。

また、「別府豊後梅祭り」といった梅を活用したイベントを開催することで、お客さんが別府に集まり、ツーリズムバレー構想につながると思う。

②起業・創業支援（中小企業支援）について

- ・企業の一番の課題は、人材不足である。株式会社みらいワークスと連携し、首都圏上場企業の社員で副業兼業を希望している方と地域企業とをマッチングする取組を開始した。地元企業は、商品開発、販売戦略、マーケティング、DX 新規企業立ち上げについての知識情報を得ることができ、企業力及び競争力を向上させることにつながる。

- ・昨年度、創業セミナーをハイブリット形式で実施した。起業創業について、昨年度は新型コロナウイルスの影響により先が見えない状況であるため、創業時期を遅らせた人が多かった。今年度は、起業のモチベーション意欲が戻ってきている。別府市に創業に特化した形で新しい組み立てを作してほしい。

- ・今年度より、融資相談会の実施を始めた。予約が多く、起業が増えていると実感している。資金面についての相談が多い。

- ・B-biz LINK が中心となり、起業を考えているモチベーションが高い学生 30 名が参加し、自分の夢、課題感について語り合う「DREAM CAMP」に、大分みらい信用金庫もサポートする形で参加した。

また、今年度、信金中央金庫が主体となって、「信金イノベーションプロジェクト」を実施した。タクシーのタブレットを活用した「感情の見える化」、竹細工を活用した「新たな商品開発」についてライブパフォーマンス等をする形で商品募集を行った。これは、全国の信用金庫で初めての取組であった。

- ・困ったときに相談できる相手として、別府市及びB-biz LINK といった支援機関があるのは、金融機関にとって助かっている。金融機関からは、B-biz LINK 担当に創業の支援をしてほしい人の紹介や、創業から成長する段階で事業が厳しくなったときのサポートをする。B-biz LINK からは、創業の準備をしていて、融資の相談を検討している人を金融機関に紹介する。このような金融機関とB-biz LINK 間で良い相互関係ができてきている。

- ・大学と商工会議所、日本政策金融公庫と連携協定を結んで、個別で創業の手伝いをしている。特に、日本政策金融公庫と連携協定した際に、共同で商品開発を実施し、連携

のスピードを速めて、融資支援をしている。

③アートの情報発信について

・アートを軸として、新たな魅力、元々別府にある魅力を「見える化」し、発信している。現在、旅行客が戻っている中で、海外のお客さんはアート意識が高く、余裕のある外国人は、アートを見るために別府に来たという人もいるので、別府で作品をいつでも見ることができる仕組みを作りたい。移住定住では、今年度別府市と連携して、狭い意味でのアーティストとクリエイターだけではなく、食文化や、工芸、ファッション、建築など、広い意味でモノづくりに携わる人が別府を目指して移住してもらうような仕組み作りをしたい。南部エリアにあるレンガホールにアーティストとクリエイター向け移住相談窓口を設置し、相談対応や情報発信をしていきたい。

④ワーケーションの状況

・昨年度にワーケーションポータルサイト開設し、別府でのワーケーションについて、月に2、3件企業から連絡もらっている。

また、鉄輪にあるコワーキングスペース「a side-満寿屋-」を貸し切りにして会議や研修を実施している等、利用頻度が増加している。

⑤若い企業側の意見要望

・現在、東京ではIT人材獲得が激しい状況にあり、どのようにしてIT人材を確保するかが課題である。自社は別府に進出後、別府オフィスで5人採用したが、5人ともナチュラルな別府市民ではない。別府に拠点を置いているIT企業に入社すれば、別府にIT人材が根付くことが期待されるが、採用状況を考えると、別府に拠点を置く意味について考える必要がある。

・高校生向けに、ドローンを使ったプログラミング教育を実施している。タクシーのタブシエルジュを活用し、感情を可視化することで、地図に観光地と認識されていなくても、来ている人が盛り上がっている場所を認識できる。稼げる別府をととして、学生に関わってくれる学生に対し、ウェブライティングの講座や、TIK TOK フォロワー60万人いる人を講師に呼ぶなど、学生に編集についてレクチャーする。そして、アルバイトとして、編集業務に携わってもらうことで、学生が東京から仕事を引っ張ることができ、更には普段時給800円、900円前後でバイトしている学生が、時給1500円程のアルバイトをしながら、スキルが身につく。このような仕組みが、「都会の企業に就職せずに、別府に住んでいても仕事はある」という考え方を生み、別府に残る選択肢が生まれることにつながる。

また、自社が海外に進出することで、海外での仕事ができる就職先が生まれる。卒業後もつながり続けるAPU生が海外で就職し、スキルを持ち、海外進出した自社に就職する。

結果として、別府の企業に就職したこととなるため、別府と関わり続けるための選択肢として、このようなコミュニティーを持ち続ける取り組みをしている。

・起業家支援の仕組みを作る観点で、B-biz LINK を通じて多くの金融・支援機関とつながり持たせていただいた。会社で企画運営している「大分県女性起業家創出促進事業」では、セミファイナリスト 17 名のうち、別府市からは 5 名選出された。

⑥ ウェルネスツーリズムについて

・別府市観光産業部長

《ウェルネスツーリズム 新湯治について説明》

(4) 追加事項

質疑等なし

(5) 閉会